

<p>平成 26 年 9 月 1 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>9 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

平成 26 年度茨城県農薬危被害防止運動期間中です (6/15~9/14)

～農薬散布の際は、周辺環境にも配慮しましょう～

< 目 次 >

<h2>I. 今月の予報</h2>	
<h3>【注意すべき病害虫】</h3>	
<p>大豆：カメムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p>	<p>1</p>
<p>サツマイモ：チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）・・・・・・・・・・・・ 1</p>	<p>1</p>
<p>ナシ：ナシヒメシンクイ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p>	<p>2</p>
<p>果樹共通：チャバネアオカメムシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p>	<p>2</p>
<p>共通害虫：オオタバコガ，ハスモンヨトウ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3</p>	<p>3</p>
<h3>【その他の病害虫】</h3>	
<p>大豆，ナシ，ブドウ，秋冬ネギ，夏秋ナス，秋冬ハクサイ・・・・・・・・ 4</p>	<p>4</p>
<h2>II. 今月の気象予報</h2>	
<p>..... 5</p>	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

大豆

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在，吸実性カメムシ類の寄生虫数（幼虫及び成虫）（本年値 0.5 頭，平年値 0.6 頭(25 株あたり)），発生地点率(本年値 31%，平年値 25%)ともに平年並である。
- ② 8月下旬現在，予察灯（龍ヶ崎市）の誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類の防除適期は莢伸長期～子実肥大中期(粒の長径が 0.5～1cm 程度)頃である。発生の多い圃場では，莢が伸長する頃から 7～10 日ごとに 3 回以上防除する。
- ② カメムシ類の成虫は子実を加害しながら，葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため，幼虫の発生状況にも注意する。
- ③ 薬剤散布の際は，薬液が葉だけでなく莢によくかかるよう注意する。特に，圃場の周縁部はカメムシ類の生息密度が高い傾向にあるため，丁寧に散布する。

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在，被害葉率(本年値 22.0%，平年値 20.1%)，発生地点率(本年値 100%，平年値 99%)ともに平年並である。
- ② 8月下旬現在，ナカジロシタバの第三世代幼虫によると思われるつる先の被害を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① ナカジロシタバは，第三世代幼虫の被害が最も大きい。老齢幼虫になると食害量が多くなるので，若齢～中齢幼虫の時期（丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の 25%程度を食害された葉が目立つ時期）の防除に努める。
- ② 薬剤散布は，幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

ナシ

1. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、フェロモントラップへの第三世代成虫の誘殺数は、小美玉市で平年より多く、笠間市(旧岩間)、かすみがうら市及び土浦市で平年よりやや多く、笠間市(旧友部)で平年並である。
- ② 8月下旬現在、被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、次世代成虫の発生を防ぐ。
- ② 早生品種(「幸水」等)で被害果が認められた場合は、中生～晩生品種(「豊水」や「新高」等)を対象に薬剤散布を徹底する。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、ナシにおける被害果率は平年並(本年値 0.3%、平年値 0.2%)、発生地点率は平年よりやや高い(本年値 22%、平年値 15%)。
- ② 8月下旬現在、果樹園に設置した予察灯への総誘殺数は、笠間市及びかすみがうら市で平年よりやや多い(過去 11 年中 3 位)。
- ③ 8月下旬現在、主要な餌場及び繁殖場所であるヒノキ林での発生は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月1日から25日までのフェロモントラップへの誘殺数は、水戸市、土浦市、龍ヶ崎市、筑西市、古河市、坂東市で平年より多い。
- ② 8月下旬現在、大豆におけるオオタバコガの寄生虫数は平年よりやや多く（本年値 3.7 頭、過去4年平均値 2.3 頭（25株あたり））、発生地点率は平年並である（本年値 69%、過去4年平均値 64%）。
- ③ 8月下旬現在、ナス、トマトでの被害を確認している。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ③ レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、定植時及び結球始期の防除を徹底する。
- ④ トマト、ピーマン等では収穫終期まで加害が続くので、発生しているハウスでは防除を徹底する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

※ 病害虫発生予察注意報第3号（平成26年9月1日発表）参照

2. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月1日から25日までのフェロモントラップへの誘殺数は、銚田市、龍ヶ崎市で平年より多く、土浦市で平年よりやや多く、水戸市で平年並、筑西市で平年よりやや少ない。
- ② 8月下旬現在、大豆及びサツマイモ圃場における発生量は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫の集団の早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ③ レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が侵入するとその後の防除が困難になるため、定植時及び結球始期の防除を徹底する。
- ④ 大豆では、白変葉（若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉）の発生を防除の目安とする。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると、発生が多くなるので注意する。県内では、チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため、それ以外の薬剤を使用する。
ナシ	黒星病	発生量：－	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。多発した圃場では、秋季防除を徹底する。特に、徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量：多い	8月下旬現在、平年より多い発生である。多発生園では秋季、休眠期及び翌春の防除を徹底する。
ブドウ	べと病	発生量：多い	8月下旬現在、平年より多い発生である。多発した圃場では、収穫後の防除を徹底する。病原菌の越冬を防ぐため、早期に落ちた葉は回収し、適切に処理する。
	褐斑病	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。多発した圃場では、収穫後の防除を徹底する。病原菌の越冬を防ぐため、早期に落ちた葉は回収し、適切に処理する。
	さび病	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。多発した圃場では、収穫後の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：－	8月下旬現在、平年より多い発生である。
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや少ない	8月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
秋冬サイ	軟腐病	発生量：－	台風等の強風を伴う降雨の後には、防除を徹底する。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 8月30日から9月29日)

気象庁(8月28日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	50	20
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 8月30日(土曜日)から9月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率60%

<2週目の予報> 9月6日(土曜日)から9月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 9月13日(土曜日)から9月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。